

サクソスの仕事を得るために

僕の父は団塊世代のど真ん中で、典型的な猛烈サラリーマンでした。その子どもたちにあたる、僕ら団塊ジュニア世代には、高校、大学と進学し、企業に就職し、サラリーマンとして定年まで働き上げる、そんな人生のルールが明確に用意されていました。父が、僕に進んで欲しい進路を榮しように紙に書いて見せてくれたのを覚えています。

しかし、僕はその社会が用意したルールに乗って、いわゆる「ふつう」の、先が決まりきった人生を歩むことに強い抵抗を感じていました。だからこそ、いわゆる普通高校に通うことを避け、私服でオートバイ通学ができて5年間通う高専を進路として選択しましたし、大学院修士課程まで修了したにも関わらず、親の反対を押し切ってサクソスプレイヤーの道を選ぶことにしたのです。時代としては、バブルがはじけた直後、就職氷河期のことでした。

音楽の道にチャレンジしはじめた僕ですが、サクソスのプレイでいうと、まだまだ修行が必要で

した。とくに高音域で音程が安定しないという悩みがありました。それを見抜いていたサクソスの師匠から騙されたと思ってやってみなさいと教えてもらったのが、ロングトーンという、とてつもなく地味で、かつ、ひたすら疲れる練習方法でした。

メトロノームをテンポ60、つまり1秒に1拍に合わせます。そして、サクソスで出せるすべての音について12拍、まったく音を出さずばなし、そして4拍休みを繰り返し。これをサクソスの一番下のBフラットから、その2オクターブ上のFシャープまで、行って戻るといいます。

ここまで30分以上かかるのですが、毎日、録音しながら、まずは3か月こなすようにとのことでした。すると、3か月を待たずして、1か月あまりでみるみる効果が出はじめました。悩みであった音程も圧倒的に安定したのですが、それ以上に音質、音自体の魅力が格段に上がりました。輪郭がハッキリして、伸びがよく、聴いている人の胸にストレートに飛んでいく、そんなイメージの音が出せるようになりました。この地味な練習は、結婚式やパレードでの演奏、個人レッスンなどという、実収入を得るための機会につながりました。

ミュージシャンと派遣社員の副業時代

しかし、サクソスでお金を稼ぎ、生活を続けられる人は、それを望む人の中でごくわずかに限ら

1 リスキリングとは

変化に対応「できる」ようにする

リスキリングをするにも、それがそもそも何ものかを知らないと取り組むことができません。悲しいかなバズワードは解像度が低いまま言葉ばかりが広まってしまったり、さまざまな都合のよい解釈が誕生してしまったりという傾向があります。本書を活用いただくにあたり、その定義を整理しておきたいと思います。

まず、よく引用されている定義が、リクルートワークス研究所によるもので、^{*1}以下のように表現されています。

新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされる大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること

たとえば、ITエンジニアになるためにプログラミングスキルを身につける、RPA導入によっ

て手作業によるルーチンが不要になるのでRPAロボット開発のスキルを身につけるといったことが例として挙げられると思います。

次に、一般社団法人ジャパン・リスキリング・イニシアチブの定義^{*2}も見てみましょう。

新しいことを学び、新しいスキルを身につけ実践し、そして新しい業務や職業に就くこと

こちらでは、「新しい業務や職業に就くこと」が目標になっていて、その通過点として「新しいスキルを身につけ実践する」ことが挙げられています。

たとえば、経理職の方がプログラミングスキルを学んで身につけ、それを実践します。ただし、この定義によると、そこまでではリスキリングしたとは言えません。そのあとに、たとえば経理業務を自動化するプロジェクトに加わったり、社内SEにジョブチェンジしたりといったことを目指すというものです。

*1：リスキリングとは (https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_services/digital_jinzai/pdf/002_02_02.pdf)

*2：リスキリングとは (<https://jp-reskilling.org/whatsreskilling>)

1 なぜ戦略が必要なのか

プログラミング学習の9割は挫折する

リスキリングにおいて、プログラミングスキルは注目のスキルです。実務でも活用できるシーンが多く、すぐにスキルをいかすことができます。また、IT人材は慢性的に不足していますから、転職などキャリア面で有利というのがその人気の理由です。

しかし、未経験からのプログラミング学習については、挫折して学習を止めてしまうことがあまりにも多いという課題がありました。

僕が起業した当初、企業向けに提供していたプログラミング研修でも同様の課題を抱えていました。実感値としては、10人のクラスのうち1、2人が実務で活用できるようになればいいというくらいでした。

さて、この点についてある調査に目を向けてみましょう。iOSアカデミア（<https://ios-academy.com>）によるプログラミング学習経験者300名を対象にしたインターネット調査では、86%が「プログラ

ミング学習中に辛いと感じたことがある」と回答しています（図2・1）。

また、その辛いと感じた時期は「1か月以内」が38%、「3か月以内」が22%と、学習初期に集中していることがわかります（図2・2）。

プログラミング学習は辛いもので、そしてそれに耐えきれなくなると学習を止めてしまう。一般的に、そのようなリスクがあると断言していいでしょう。

しかし一方で、現在僕が運営しているコミュニティ「ノンプロ研」のみなさんの状況は、それとは異なるものです。もちろん、学習が辛いと感じ

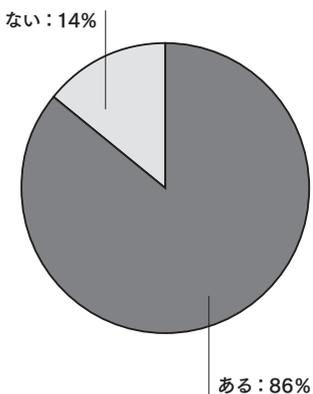


図 2-1 プログラミングの学習中つらいと感じたことがあるか？

*1: 【プログラミングで挫折しない秘訣】経験者300人へのアンケートをもとに解説(<https://ios-academy.com/blog/ios-engineer-work/1140/>)

んとうのボールを投げてくるわけではなく、さまざまな球種と緩急を駆使して、バッターを打ち取ろうとしてきます。ですから、どんなときでも、自分にとってベストのフォームでスイングができるよう、腕力を鍛え、再現性を確保する、そのために素振り練習をするのだそうです。つまり、素振り練習は、自らのバッティングの「型」を身につけるための練習と言えます。

僕は、リスキリングにおいても、「型」があり、それを身につけるのがよいと考えています。型さえあれば、ある思考をしているとき、または、ある行動をしているときに、「型」にはまっているかどうかでその良し悪しを評価、修正することができます。型がなければ、それらを評価する軸を失ってしまい、さまざま状況の変化に振り回されてしまったり、身体に染み付いているよくない癖に従ってしまったりするかもしれません。

思考と行動のモデル化

リスキリングの型を手に入れるために、思考や行動についてのモデル化を試みたいと思います。モデルというのは、複雑なものの中から、特徴的な部分だけを取り出して簡略化したものです。

というのも、人の思考や行動というものは、とても複雑なので、ありのままを捉えようとしてもうまくいきません。そこで、それをシンプルなモデルとして、その事象を捉えやすく、分析しやすい

くするのです。このモデルをスタート地点として、リスキリングの型としてはどのようなものが望ましいのかを考えてみましょう。

はじまりのモデル

具体的には図2・3のような、原始的なモデルからスタートをします。

このモデルについて説明していきましょう。まず、人は常に、意識的または無意識的に思考を巡らせています。それをもとに、ある行動をとったり、とらなかつたりします。なんかちよつとつまらないなと思ったら、スマホを手にとってゲームアプリを開いたり、宿題を忘れていたことに気づいたら、慌ててスマホを置いて宿題に取り掛かっています。

そして、行動をした結果、身の回りの環境に変

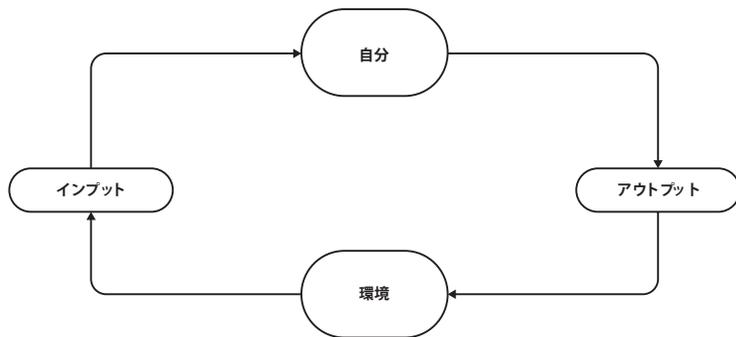


図 2-3 はじまりのモデル

「プログラム」すれば迷わない

あなたは今、ある国で車の運転をしているとしましょう。しかし、その国には交通規則が存在していません。交差点に進入したあなたは、右折したいと考えています。しかし、前方から対向車が押し寄せていますし、左側からも直進しようとする車に続いて、右折しようとする車が交差点に入ろうとしていてるところです。

あなたはこの国の交差点を、スムーズに通過するのは難しいと感じるのではないのでしょうか。一方で、この日本では、ありがたいことに交差点でどのように振る舞うべきかが道路交通法によって定められています。それは以下のとおりです。

- ① 信号機があるならそれに従う
- ② さもなくば優先道路を走る車が優先的に通過する

優先道路かどうかは、以下いずれかに該当するかどうかで判断できます。

- 優先道路の道路標識がある
- 中央線が交差点内でつながっている
- 道路の道幅が明らかに広い

このように、あらかじめどのように振る舞うべきかの手順が決まっていることで、交差点のような難所でもスムーズに通過をすることができます。このような、物事を行う手順のことを「プログラム」と言います。

一般的にプログラムと言えばコンピューターに対してするものとして認識されていますが、交差点での交通規則のように、慣習や規則というかたちで人の振る舞いにも適用されています。そして、それは自分自身に対しても活用することができます。

僕たちの生きている毎日は、交通規則のない交差点のようなものです。無数の選択肢があり、かつ刻一刻と状況が変化しています。その状況において、そのいずれかを選択し、行動を起こすというのは、困難を極めることのように感じます。交差点に入るのをためらってしまったり、誰かに決めてもらおうとしたり、過去の成功体験と同じ選択にすがったりするかもしれません。

時間を生み出すことからはじめる

2章と3章を通して、リスキリングの戦略について紹介しました。すなわち、思考・行動の型としてのOODAループを回すこと、またその際の指針として、システム化、無意識、学習、実践、環境づくりの原則を用いることです。

これにより、限られたリソースの中であつたとしても、リスキリングのビジョンに着実に近づいていくことができるはずです。そして、OODAループを回せば回すほど、フィードバックが得られ、思考・行動の質が向上し、アウトプットによって環境が有利な局面に変わっていくこととなります。では、今からリスキリングをはじめようとするとき、あなたは何かからはじめるべきでしょうか？ この答えは、3章で解説したとおり、自らの影響の輪の中にある課題を発見することです。

しかし、それでもまだ漠然としていて、課題がハッキリ見えないときもあるでしょう。4章では、その点について、なるべく多くのビジネスパーソンが該当するであろう仮説をもとに、そのファーストステップを踏み出しやすくするよう、ロードマップを示したいと思います。

そして、そのロードマップを歩みながら、OODAループを回す訓練を繰り返していただき、徐々にリスキリング力を高めて、自走できるころまで本書がサポートできればと思います。

注意点として、4章、5章に関しては、具体的なノウハウを多く紹介しますが、本当に取り組むべきかどうか、あなた自身で判断してください。もし、当てはまらない項目があれば、情報として入手しておくだけで、行動しなくて結構です。「書いてあるとおりにやる」のは楽ですが、それでは自律して思考・行動をする訓練にならないからです。

「時間がない」を解決する

身の回りにどのような課題があるのか、当然ながら人それぞれ、自らとその置かれている環境で異なるわけですが、一般的な日本のビジネスパーソンでリスキリングをしたいと考えたときに、おそらく多くの方が直面する共通の課題があります。それは、「時間がない」という課題です。

雇用契約にあるならば、一般的に平日日中8時間は就業時間となります。睡眠時間を8時間とすると、活動できる時間は8時間ですが、食事と風呂は毎日必要ですし、家事もしないわけにはいきません。職場によっては通勤時間も必要になるでしょうし、残業が慢性化している職場もあるでしょう。残った時間をかき集めても、1日あたり1〜2時間が限界というのがほとんどではないでしょうか。

1 デジタルスキルを身につける

スキルを身につける最初のステップ

4章では、リスキリングの最初の一步として「時間が無い」という課題を解決すべく、時間を生み出す方法をお伝えしてきました。それらのアクションを起こすことによって、時間というリソースを生み出すことができましたはずです。

次のステップは、その生み出された時間を用いて、スキルを身につけていくフェイズになります。その準備として、3章を参考に以下の手順を進めるとよいでしょう。

- ① 環境を整える
- ② 時間を確保する
- ③ 目標と計画を立てる
- ④ 学習と実践を習慣化する

まず、環境づくりですが、情報収集、情報管理、つながりに関して、リスキリングに適した環境を整えておきましょう。情報収集は、観察の要になります。Twitter、Voicy、NewsPicksなど、僕をフォローしていただければデジタルリスキリングに関する情報収集がしやすくなると思います。情報管理はNotionなどのツール導入を試みてください。社内外のコミュニティについても、積極的に参加しましょう。

次に、生み出された時間を確保し、カレンダーに予定を登録します。なるべく割り込みが入らないような、毎日の定期の予定が望ましいです。

そして、目標と計画を立てます。ここで「どのスキルを学ぶか」という選択をすることになりますが、忘れてならない視点が「関連づけ」と「課題の発見」です。身の回りに解決したい課題がある、実務でこういうことができるようになりたい、そのような具体的な「あるべき姿」があることによって、モチベーションとパフォーマンスが高まります。

そして、いつまでにどのようなことを実現するか、そのために何時間の学習をするか、このような計画に落とし込んでいきましょう。未経験者では、どうしても計画の精度は低くなりますので、ここで他者の力を借りるのが有効です。コミュニティを活用して、先輩たちの知見を頼りにしましょう。そして、実際に学習と実践のループを回し始め、それを習慣化します。当初、行動を起こすには意志が必要になりますが、無理のない習慣であれば、継続することで徐々に定着するはずですよ。